



トップ インタビュー

人と人との繋がりを活かして

株式会社 ジーウェイブ 代表取締役社長 **吉田 善幸** さん



株式会社ジーウェイブは2003年6月創業。地域コミュニティサイトの運営、システムの開発・コンサルティングを主たる業務とするIT関連企業である。社長の吉田さんは筑波大学大学院卒業後、IT企業大手であるNTTに入社（研究所勤務）、NTT東日本を経て39歳で独立開業したベンチャー起業家。今回は、安定企業からの独立、自ら「遅咲きの起業」にチャレンジしたと言う吉田さんの熱き思いをお聞きする。

主な事業内容を教えてください

当社の事業は大きく二つを柱にしています。

一つは地域コミュニティサイト「ちばうえーぶ」の運営です。前職のNTTでは、電子政府や電子自治体などの大きなシステム開発の研究に関わってきましたが、研究・開発が主で顧客の顔が見えませんでした。もっとエンドユーザーと直に接して役に立つサービスがしたい、と常々思っていました。そこで地域に根ざしたサービスの提供ができないかと始めたのがこのサービスで、千葉市各区の6サイトで構成された生活圏の情報共有がテーマです。

もう一つはオープンソースを使った技術開発。オープンソースとは、ソフトウェアの設計図にあたるソースコードをインターネットなどを通じて公開する無償のソフトウェアで、これを元にお客様の要望に沿っ

たシステムソフトを構築する業務です。

通常メーカーの販売しているソフトを使ってシステムソフトを構築する場合、ハードウェア関連の費用やソフト構築の手間であるSE人件費に加えて「ソフトウェア購入費」「ライセンス費」がかかります。オープンソースはこれが無償であるため、従来のソフトウェア構築費を安くできるという大きなメリットがあります。

当社の事業は、このオープンソースを使って、様々な要望に応えるソフトウェアを作り上げる技術力が最大の特徴で、地域コミュニティサイトもその一つの実例であると言えます。

起業への不安や苦労があったと思いますが

そもそも私には学生時代からベンチャーを志す意識が強く、30歳代には起業したいという思いがありました。だから起業した39歳はギリギリの決断でしたね（笑）。

これは全てのサラリーマンに言える事ですが、辞めるタイミングと決断の勇気が独立する時の一番の悩みです。辞めるリスクとサラリーマンを続けて行くリスク、どちらが大きいかを考える事が大切です。起業してからというのは、何も無い「ゼロ」から「1」にする事には非常にパワーが必要です。しかし、「1」にな

ってしまえば「10」や「100」にすることは簡単なのです。「ゼロ」から「1」に向けての不安とリスク、ここで踏み切りをつけて一歩踏み出すかどうか、起業できるかどうかの境目ではないでしょうか。

私の実家は一般サラリーマン家庭ではなく、建設業関係の自営業だったというのも独立に大きく影響していると思います。小さな苦労は毎日のように多少なりともあるものの、自分の意思・判断で仕事ができる事を楽しく思っています。

家族や周りのサポートも重要な要素で、私は年輪的にも社会的にも責任のある時期での独立でしたが、家内は私が若い頃からの独立志向であることを理解してくれていて、起業を相談した時に「思ったより遅かったね」という言葉に非常に勇気づけられました。

経営者となって改めて感じる事は

やはり組織の一部として動いているサラリーマン時代に比べ、自分の判断・決断で仕事ができる事に大きなやりがいを感じます。創業から3年が経過し、一人で始めた会社も今では社員が5名になり、その分責任も大きくなりましたが、「やりたくない仕事」は自分の判断で断る事もできますからね（笑）。

ようやく会社としての体裁が整ってきたと感じている現在、前職でのサラリーマンの経験も大きかったな

と思うようになってきました。社会の大きな仕組みを知る事や、今も活きている人的なネットワークなど、若い頃から独立心が強かった私ですが、もし大学卒業と同時に創業していたら失敗していたかもしれませんね。

当社のような小さな企業は実績もありませんから、人との繋がり、信頼関係を如何に作って行くかと言う事が非常に大きいと思います。当社のような規模では、まだ多くの人材を雇い入れる事も不可能である現実では、電話一本で動いてくれる人的なネットワーク、「チーム」として動ける力が大きな財産です。

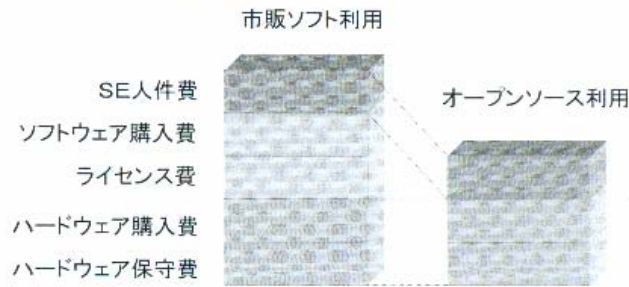
当社はメーカーのような設備投資、商品販売のような店舗や在庫といった投資が少ない業態ですが、だからこそ人的な財産が一番大きいと感じております。ITという電子・バーチャルの世界ですが、やはり最後は「人」とであると痛感しています。

今後の課題、事業展開など 教えて下さい

先にも述べましたが、当社の最大の特徴はオープンソースを使ったシステムソフトの開発です。市販ソフトのメリットは何かあった時にメーカーに責任を持って行ける事にあります。オープンソースにはそういうメーカー保証のようなものがないので、一般的にリスクが高いと思われるがちですが、オープンであるがこそ問題点が開示されており、セキュリティ上はリスクが低い事があまり知られていません。

オープンソース活用のシステム構築は、リスク回避のために高い費用をかける代わりに、責任をメーカー依存ではなく、使い手側も持つ事で費用が軽減できるものです。昨今のITバブルが過ぎ去った現状では、これまでのようにシステムソフトに潤沢な資金をつぎ込む事ができない現状では、オープンソフトを使ったシステム構築の方向が益々加速度的に進んで行くと思われれます。また、国家レベルで言えば、外国産ソフトが

システム構築・運用のTCO（総保有コスト）が削減



主流の現在、セキュリティ上安易に市販ソフトを使えない状況にもあり、さらにこの傾向は強まって行くと思われれます。

当社はそのサポートを行なう事業展開であるがゆえ、技術的なサポートが一番の課題で、今後も含め高度な技術者・技術力の育成が大きな課題ですね。

今後の夢、将来への展望を お聞かせ下さい

創業3年を経過した現在、お陰さまで仕事は着々と増えております。実験的に始めた地域コミュニティサイト「ちばうぇーぶ」は、当社独自で運営をしても今後の発展が望めないため、この4月よりNPO法人「まちづくり千葉」に運営を移管し、当社は本来の技術的な開発やサポート業務に注力することとしました。

先にも述べたように、今後オープンソースを使ったシステム構築の流れが大きくなると思いますから、当社としては、より技術的な開発・サポート業務に特化して行くつもりです。

ご承知のように、このような新しい開発業務は実績が重要です。「○○でやっている」という事がクライアントの一番の安心材料になります。公共関係の仕事などには、このような傾向が少なからずありますから、当社としては一つでも多くの実績を持って営業拡大に繋げて行きたいと考えております。

当社の開発メニューとしては、既に実績のあるコミュニティサイト、

ブログサイトなどです。SNSと呼ばれるコミュニティサイトでは、例えば学校のPTAの連絡用として、昨今特に問題となってきている不審者情報などの情報発信にも活用できます。また、公共施設の予約システムなどの開発を現在進めております。

今後、会社として適正な利益を出しながら、社会貢献のできる会社になる事、これが目標です。大きな夢としては、NTTとそんな色ないサービスを提供できる会社、NTTを超える企業になる事です。

趣味はウィンドサーフィン、千葉に住むことになったのも「海が近いから」という吉田さん。電子機器に囲まれた業務の中でも人と人の繋がり、ヒューマンインターフェイスが重要と語る吉田さんの「楽しみながら仕事をする」姿勢こそ、ベンチャーの強みであると感じた。

井田 典幸

株式会社 ジーウェイブ

住 所 〒260-0027
千葉市中央区新田町36-15
千葉テックビル6階
※5月1日より下記に移転
〒261-7115
千葉市美浜区中瀬2-6
WBGマリブイースト15階
電話番号 043-203-6777
代表取締役社長 吉田 善幸
従業員 5名
事業内容 ITシステムコンサルティング、システム開発
U R L <http://www.ziwave.com/>